

いざというときのために 防災マップの使い方

ステップ 1 自宅の場所を確認しましょう。

ポイント 自宅周辺の危険な所を確認する。

1 防災マップを見て、自宅の周辺に土砂災害警戒区域や浸水想定区域などの危険箇所がないか、確認しましょう。



ステップ 2 避難する場所や避難ルートを確認しましょう。

ポイント 災害を具体的に想像しながら歩いてみる。

1 洪水災害や土砂災害など、災害ごとに緊急避難する場所を家族で相談し、避難ルートを地図に記入しましょう。(なお、地図に記載された避難場所や避難所は、災害の状況に応じて開設されます)【防災マップ P.65 指定緊急避難場所一覧参照】

2 集合場所や連絡方法などを家族で相談しましょう。(災害は、家族全員が自宅にいるときに発生するとは限りません!)

3 実際に歩いて安全なルートを調べましょう。また予備のルートも考えておきましょう。



ステップ 3 危険(注意が必要)な場所に印・マークを付けよう。

ポイント 危険なもの・場所を予測することが大切。

1 ものが落ちてくる。(看板、植木、割れたガラスなど)

ものが倒れてくる。(ブロック塀、固定されていない自動販売機など)

2 土砂災害や洪水災害の危険がある。(河原や土がむき出しの斜面、過去に浸水したことがあるなど)

冠水時に落ちる恐れがある。(マンホール、溝や水路など)



ステップ 4 安全な場所・役立つ場所に印・マークを付けよう。

ポイント 給水のポイントを調べておこう。

1 災害時に水が手に入る場所を調べて印・マークを付けよう。(飲み水が手に入るところ)

2 災害時に役立つ施設に印・マークを付けよう。(コンビニ、ガソリンスタンド、公衆電話、公衆トイレなど)



ステップ 5 防災マップを活用しよう。

ポイント 防災情報メモに記入しましょう。

1 非常時持出品、非常時備蓄品を確認しましょう。

【防災マップ P.10 非常時持出品の準備&チェック参照】

2 わが家の「防災・緊急情報」メモに、安否確認のため、家族の情報や親戚の連絡先などを記入しておきましょう。

【防災マップ P.66 わが家の防災・緊急情報メモ参照】

情報の伝達経路と入手方法

防災行政無線

緊急情報を、町内に設置したスピーカーを使って放送します。

- 防災行政無線やぴーちゃんねっと等の内容に注意し、テレビやラジオをつけて情報を収集してください。

テレビやラジオなどの情報

災害が発生又は発生の恐れがある時には、テレビやラジオで気象や地震に関する情報、災害の発生状況などが放送されます。正確な情報を収集し、早めの備えや避難に役立てるようにしてください。

データ放送の見方

- ①「dボタン(連動データ)」を押す
- ②見たい情報の色ボタンを押す
- ③方向(矢印キー)や真ん中の決定ボタンを押して、見たい情報を選択する。

例)NHK 総合データ放送内容

- ・ニュース(青ボタン)
- ・気象情報(赤ボタン)
- ・地震・津波・火山(緑ボタン)



※「d」ボタンの位置・表記は機種によって異なります。

※上記以外にも情報収集の手段はありますので、自分にあった方法で正確な情報を取るように心がけましょう。